



八代市【熊本県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成30年12月 ■人口：127,306人 ■市域面積：681.36km²
■担当課：八代市経済文化交流部文化振興課（平成31年3月現在）



八代市は、各地の自然地形、交流などの歴史、社会環境により、地域ごとに独自の歴史文化が形成されてきた。市内各所に所在する歴史文化遺産を、周辺環境も含めて総合的に把握することで、歴史文化の特性に基づいた歴史文化遺産の保存・活用の方針を明らかにし、歴史文化を活かした地域づくりの在り方を示すことを目的として「八代市歴史文化基本構想」を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

流通と交流の結節点、干拓と石造りの文化、
秘境五家荘の文化、城下町の文化、手永制度

課題

- ・歴史文化遺産の悉皆的な調査及び把握の不足
- ・歴史文化遺産に対する市民の認識と関心の低さ
- ・少子高齢化等に伴う保存活用の担い手不足
- ・歴史文化遺産を活かした地域づくりの効果的な推進

保存活用方針

- ・資料や情報の収集、保存のための取り組みの推進
- ・歴史文化遺産を次世代へ保存・継承していくための取り組みの推進
- ・歴史文化遺産を活用したまちづくりの推進

保存活用のための取り組み

歴史文化遺産の保存活用に関する諸計画の策定

文化財を適切に保存活用・継承していくために、保存管理の基本方針と方法、整備活用の基本方針等を示した『名勝不知火及び水島保存管理計画』・『八代城跡群保存活用計画』を策定している。今後、計画に基づき、各文化財の保全、普及啓発活動などの取り組みを進める。



歴史文化遺産を次世代に継承する取り組み

指定等文化財の復元修復・保存に関する事業や「妙見祭」をはじめとした民俗文化財の公開活用や継承・体験に関する事業を通して、市内各地の歴史文化遺産を次世代に継承する取り組みを実施している。



歴史文化遺産の保存活用を図るための施設の整備

歴史文化遺産の保存活用を促進する様々な方策の一つとして、将来にわたる着実な保存継承とともに、公開による情報発信を行うことで各地域の伝統文化財を活かした本市の活性化が図られるよう、施設の整備を進める。



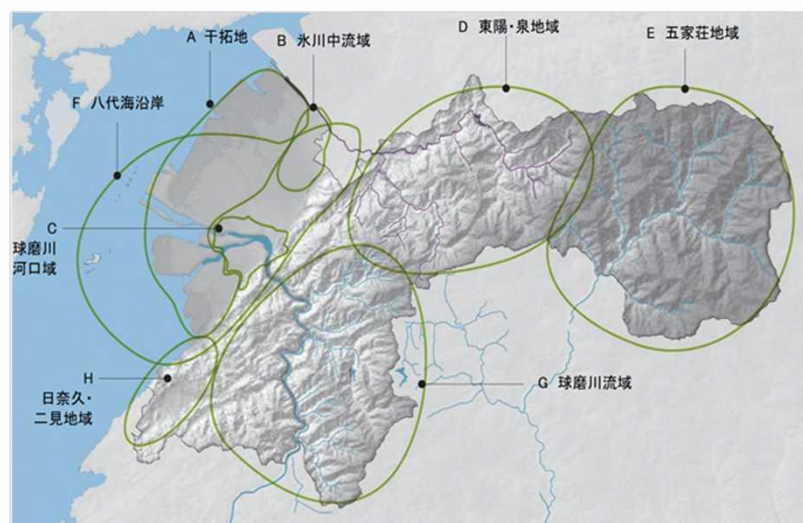
地域に対する誇りや郷土愛を育む取り組み

歴史文化基本構想で取り上げた、4つの地域特徴と11の関連文化財群について、地域学習のテーマとして学校教育・社会教育での活用や積極的な情報発信を通して、八代市全体で共有し、地域に対する誇りや郷土愛を醸成する。





関連文化財群



八代の関連文化財群 地区区分 A～H

八代市の地形や交通などの特徴と歴史文化遺産の特徴・分布を踏まえ、歴史的なまとまりから考案した地域区分に基づく、8つの関連文化財群を設定した。また、地域を越えて市域全体に広がりをもつ「八代を代表する文化」について、それらが地域の技術的・社会的な発展につながっているものとして3つの関連文化財群を設定した。

ストーリー

- ① 近世からの干拓地と、それに関連する文化
- ② 氷川中流域付近で発達した古代からの文化
- ③ 港を中心として発展した、八代の城下町と門前町の歴史文化
- ④ 氷川流域の生活と歴史文化
- ⑤ 豊かな自然に彩られた秘境の里
- ⑥ 八代海周辺の交流をあらわす古代から中世の遺跡
- ⑦ 球磨川下流域の交流と点在する山村集落の文化
- ⑧ 薩摩街道筋の集落と温泉街
- ⑨ 八代で花開いた石造りの文化と石橋群
- ⑩ 八代の近代化を支えた歴史文化遺産
- ⑪ 八代と九州各地との交流を伝える伝統芸能



策定後の成果（見込まれる効果）

① 郷土学習への活用

策定後、教育現場や各地域での取り組みにおいて、歴史文化遺産や関連文化財群を、地域の歴史文化の再認識や郷土学習の素材として活用する機運の高まりがみられた。今後、学校等における郷土をテーマとした課題学習等への活用や、市民が地域の歴史文化の特徴や魅力を学ぶ際の基礎資料としての活用等、更なる活用が見込まれる。



② 市の各種施策との連携

八代市総合計画や関連計画に記された各種施策を、歴史文化の側面から推進することが期待されている。今後、まちづくり・教育・産業振興・観光振興等、あらゆる分野の施策との連携や、歴史的風致維持向上計画・文化財保存活用地域計画などを策定する際の活用が見込まれる。



③ 日本遺産申請等への活用

日本遺産の認定申請を行った際に、関連文化財群のストーリーや、歴史文化遺産を基礎資料として有効に活用することが出来た。市内各所に所在する歴史文化遺産について、周辺環境も含めて総合的に把握を行っていたため、ストーリーや、関連文化財の検討などに反映することが可能となった。

